

9 研究活動と研究環境

進捗状況報告

【9.1研究環境】2006年度より大学院生の研究紀要である『KGPS Review』を年2回発行とし、大学院生の研究発表の機会を拡充した。また、総合政策学部、総合政策研究科の研究紀要である『Journal of Policy Studies』も継続的に発行しており、大学院生も投稿可能（ただしレフェリー付）である。さらに、「ユニバーサルデザイン教育研究センター」（2004年10月設置）、「国際開発戦略リサーチセンター」（2005年4月設置）、「地域・まち・環境総合政策研究センター」（2005年4月設置）に加え、2006年4月に「持続可能社会研究センター」を新たに設置し、総合的・実践的な教育・研究体制の一層の充実を図った。総合政策研究会の活動については、2006年度には、教員研究会（2回）、講演会（13回）、ランチ・ミーティング（2回）を実施し、積極的な研究交流、人的交流を行っている。オンライン・データベースおよびオンライン・ジャーナルについては現時点でもかなり充実しているため、当面これを維持する。

【9.2研究活動】論文等の研究成果の発表を一層促進するとともに、研究業績データベースの更新を定期的にチェックし研究業績がもれなく登録されるよう周知徹底を行う。また、科研費申請数については、1998年度から2006年度にかけて22件が採択されている（継続分も含む。ただし研究協力者として科学研究費の交付を受けているものは含まない）。レフェリー付論文数、共同研究等について検証する必要があるとの認証評価意見が付されているので、今後、論文発表等の研究活動に関するデータ収集の方法について検討する必要がある。

学部	年度	著書	論文	レフェリー付論文	学会報告	学術発表	翻訳	調査報告	書評	評論	事典	辞典	講演	招待講演	特許取得	特許出願
総合政策学部	2001	28	28	4	15	0	4	13	2	12	0	0	16	6	0	0
	2002	23	17	18	16	1	1	16	7	17	0	0	23	8	0	0
	2003	31	12	12	23	0	0	12	3	20	0	0	18	22	0	0
	2004	14	39	4	9	0	3	8	1	17	1	0	10	17	0	0
	2005	23	34	11	14	0	2	2	2	10	1	0	11	21	0	0
	2006	16	22	7	14	0	0	4	0	10	0	0	5	25	0	0

学内第三者評価

認証評価では、研究活動の環境について「ほぼ整備されている」との評価を受けているが、「査読付き論文数の検証」を課題として挙げており、積極的な取り組みが必要である。

先に指摘した「学位授与の認定」ともリンクさせて、より積極的な仕組みの構築について検討されることが望まれる。さらに、科学研究費獲得数の増加については、全学的取組の成果と相まって、総合政策研究科の実績は評価されるべきものであるが、今後の維持・拡大についての具体的な目標・制度の構築についての記述が望まれる。